

飼料用米を活用した複合経営

(滋賀県：(有)宝牧場)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
	○		○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

＜取組主体について＞

- ・所在地：滋賀県高島市
- ・代表者：代表取締役社長 田原 哲也
- ・飼養頭数：総頭数2,039頭（乳用牛319頭、肥育牛1420頭、繁殖雌牛200頭、豚100頭）
- ・雇用者数：20名（R4.2時点）
- ・HP等：<https://cowcowfarm.com/>



玄米粉砕機

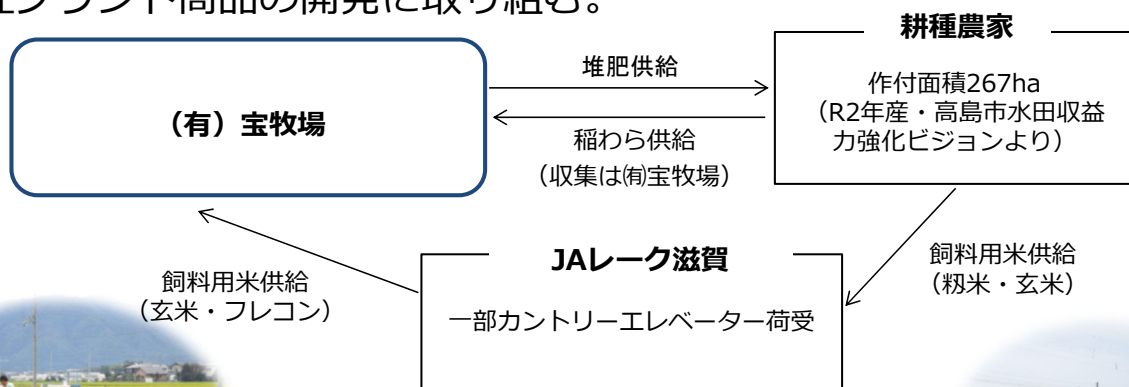
＜取組について＞

○ 概要

- ・平成23年から地元の耕種農家が契約栽培した飼料用米を豚に対し飼料として利用（豚の飼料には飼料用米以外にも、飲用として流通できずに廃棄していた、乳用牛の初乳を給与して「みるく豚」としてブランド化）。
- ・肉用牛にも飼料用米を給与するため、平成29年度に飼料用米倉庫を整備。飼料用米倉庫には 玄米粉砕機を設置しており、地元のJAで集荷された飼料用米を中心に年間約1,000トンの飼料用米を活用。
- ・強制発酵処理施設で完熟堆肥（分析済）を生産、耕種農家ほ場に供給。

○ 今後の展望

- ・令和3年末にロータリー式搾乳施設を整備し、生乳出荷量の拡大を目指す。
- ・ふるさと納税の返礼品等により他府県の顧客が増加傾向にあり、引き続き、自社ブランド商品の開発に取り組む。



飼料用米を活用した循環型農業の取組

(京都府)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
			○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地：京都府
- ・概要：京都生協を中心とした京都府下6市町の飼料用米生産農家（令和2年産：約20ha、108t）と2養鶏農家による鶏卵販売・流通のスキーム。



販売された商品

<取組について>

○ 概要

- ・京都府内の休耕田で生産した飼料用米を京都府内の養鶏場で鶏に給餌し、卵を京都生協の組合員が利用する地産地消の取組であるとともに、耕作放棄地の拡大を防止。
- ・平成22年2月から「さくらこめたまご」として試験販売し、平成23年秋からは通年販売を実施（32.5万パック（10個パック換算）、供給高：約8千万円）。
- ・飼料用米を作付する田には鶏ふん堆肥を還元。

○ 成果

- ・飼料用米の配合率を10%以下に抑えることにより食味や色が変わらない日常的な卵として普段の販売価格により販売。
- ・販売価格は卵1個あたり1円を上乗せした価格とし、これにより得られた応援金を生産者に還元（令和3年：約325万円）。
- ・「飼料自給率の向上」、「水田の有効活用」等に消費者も貢献することが可能であることをアピールすることにより、循環型農業による畜産物の生産を積極的に推進。

○ 今後の課題

- ・「さくらこめたまご」利用向上の取組。



都市の利点を生かした酪農教育ファーム活動

(大阪府：大阪府立農芸高等学校)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
			○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地：大阪府堺市
- ・代表者：校長 浦 展諭
- ・飼養頭数：乳用牛・肉用牛 約20頭
- ・募集人数：ハイテク農芸科40名、食品加工科80名、資源動物科80名
- ・HP等：(学校HP) <https://osaka-nougei.ed.jp/>
(資源動物科Facebook) <https://www.facebook.com/osaka.nougei.zoo.ONZ/>



小学校の酪農体験受け入れ

<取組について>

○ 概要

- ・府内唯一の酪農教育ファーム認証牧場として、消費者の大阪酪農に対する理解向上と牛乳消費の拡大を目的に酪農体験や出張食育授業を実施。
- ・近隣のビール工房やワイナリーから出る食品残さから製造したサイレージを給与した牛を農芸マザービーフとして加工・販売。
- ・また、ワイン粕を飼料化したワイン粕サイレージは、府内養鶏農家に販売。

○ 成果

- ・酪農体験参加者人数は64人(平成27年度)から165人(令和2年度)に増加。
- ・コロナ禍においてもオンラインで実施。
- ・酪農教育ファームを通じた食育活動やエコフィード利用畜産物の販売等を通じて資源循環型畜産への理解醸成を図る。



地域と密着したブランド卵の生産

(兵庫県：株式会社オクノ)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
	○		○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

＜取組主体について＞

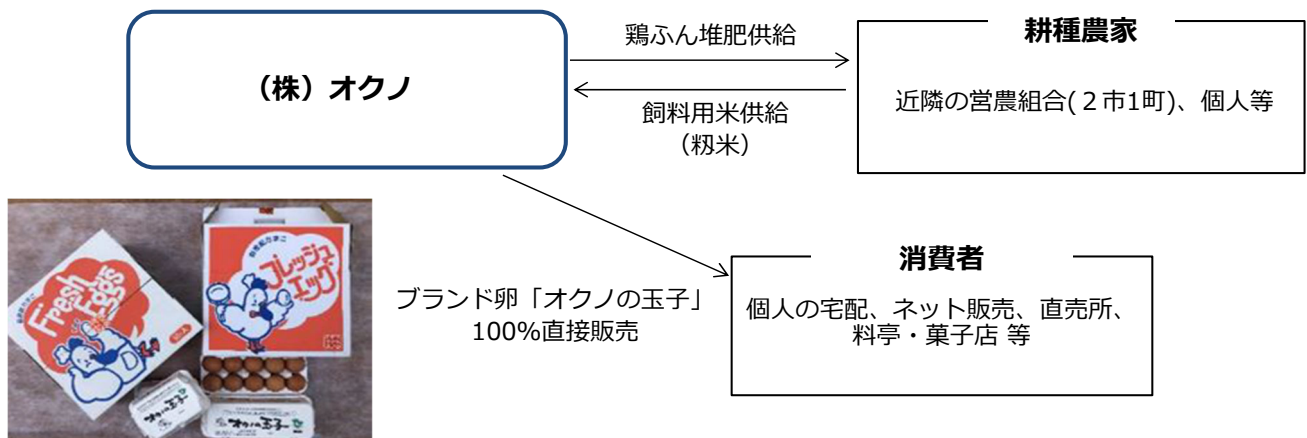
- ・所在地：兵庫県加古川市
- ・代表者：代表取締役 奥野 克哉
- ・飼養羽数：15,000羽
- ・年間生産量：約243t (373.8万個) (R03年度)
- ・飼料用米使用実績：46.4ha、300t (R03年産)
- ・雇用者数：12名 (R4.2時点) (パート含む)
- ・HP等：<https://www.okunofarm.co.jp/>



鶏舎の様子

＜取組について＞

- 概要
 - ・飼料用米（17%以上配合）や釧路産サンマ魚粉、地元農協の米ぬか、赤穂の塩等、厳選した飼料原料を自家配合し給与。
 - ・この飼料を給与した鶏から生まれた卵を農場ブランド卵「オクノの玉子」として販売。
 - ・市場価格に左右されない養鶏経営を目指し100%直接販売。（個人への宅配、料亭等への卸売、直売所、インターネット販売等）
 - ・好気性発酵により生産した良質堆肥を10アール当たり300kg無償で提供。
- 成果
 - ・「オクノの玉子」を中心に、連携する耕種農家から仕入れた野菜をホテルのマルシェ（産直市場）で販売。
 - ・確立されたブランド力を活かして、近隣の耕種農家とホテル等の実需者とを結びつけるコーディネーターとして活躍。



消費者との交流を深める都市型酪農

(兵庫県：弓削牧場)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○	○				消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地 : 兵庫県神戸市
- ・代表者 : 代表 弓削忠生
- ・飼養頭数 : 乳牛50頭 (うち経産牛30頭)
- ・敷地面積 : 9 ha (うち採草放牧地 4 ha)
- ・雇用者数 : 30名 (R4.2時点) (パート含む)
- ・HP等 :
(会社HP) <https://www.yugefarm.com/>
(Twitter) https://twitter.com/Yugefarm_Kobe
(Instagram) <https://www.instagram.com/yugefarm/>
(Facebook) <https://www.facebook.com/yugefarm/>



カマンベールチーズと
フロマージュ・フレ

<取組について>

○ 概要

- ・自家育成した子牛たちを放牧して飼養。
- ・昭和60年、チーズ工房を建設し、西日本で初めて個人の酪農家としてチーズ作りに着手。
- ・昭和62年、レストランを建設し、生産・加工・販売までの6次化の取り組みを開始。
- ・平成6年、場内での結婚式、オンラインショッピング開始。
- ・平成18年から搾乳ロボット等を導入し、新技術飼養システムを実践(2020年2号機に更新)。24時間放牧が実現。
- ・平成24年から牛糞からメタンガスを取り出すバイオガスプラントを設置し実験開始。
- ・現在、牛の糞尿、チーズ製造やレストラン残さなどを活用したバイオガスユニット(神戸大学と共同研究)を運用中。
- ・牛糞や、チーズハウス、チーズ工房、菓子工房の残さを集め発酵させた消化液(有機JAS資材リスト登録取得済)を畑や牧草地に還元し、取れた無農薬・無化学肥料栽培の野菜、ハーブはレストランで提供。

○ 成果

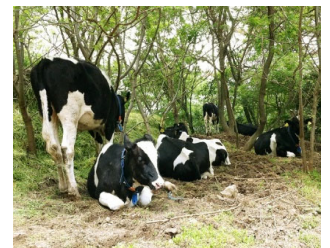
- ・自家産の乳製品、野菜等によるオリジナルメニューのコース料理の開発・提供、チーズ作り体験セミナーの開催等、乳製品の普及、消費拡大に貢献。
- ・手作り結婚式、コンサートの開催、視察研修、酪農研修生の受入等、都市型酪農の先進事例、消費者交流の先駆けとして、多くの情報を発信。

○ 今後の課題

- ・宅地化の進展等、周辺の開発による環境問題の懸念。
- ・次世代へと繋ぐ、都市農業の新たな形の実現。



バイオガスが貯蔵された
ガスバッグ



放牧場

専門農協が担う資源循環型畜産経営の要としての役割

(奈良県：畜産農業協同組合肉用牛事業部)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
			○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地：奈良県大和郡山市
- ・代表者：代表理事組合長 竹田 芳弘
- ・稲わら収集延べ面積：140ha
- ・出役者数：7名(R4.2時点)
- ・HP等：<https://www.chikusan.or.jp/>



レーキによる稲わら収集

<取組について>

○ 概要

- ・平成27年から、米を収穫した後に水田にすき込みされていた稲わらを家畜飼料として有効活用。
- ・畜産堆肥はほ場に還元し資源循環型畜産を推進。
- ・取組開始時は補助事業を活用して稲わら収集活動を支援（平成27年国産粗飼料増産対策事業）。
- ・県単事業では堆肥散布活動を支援。

○ 成果

- ・5年間で延べ140haのほ場からの稲わら収集及び延べ7haのほ場への堆肥散布を実施。
- ・平成30年度以降は補助事業に頼らない自立した運営を実施。
- ・県域の資源循環型畜産経営の要として活躍。



ゼロからの粗飼料自給率の向上

(和歌山県：かつらぎ畜産クラスター協議会)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
			○		消費者理解の醸成

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

＜取組主体について＞

- ・所在地：和歌山県伊都郡かつらぎ町
- ・代表者：楠本 哲嗣
- ・構成員：6名



稲WCS収穫作業

＜取組について＞

○ 概要

- ・自給飼料の生産拡大を図ることにより、経営コストの軽減と安定化を推進。
- ・平成28年度からWCS用稲の生産を開始。
- ・耕種農家が栽培した稲WCSを畜産農家が収穫・サイレージ化し、町内の肉用牛繁殖農家1戸に給与。
- ・家畜ふん尿は堆肥化後に飼料生産ほ場に散布。

○ 成果

- ・飼料自給生産量の増加：0t(H27)→25.6t(R2)
- ・飼料用作物の作付増加：【稲WCS】0a(H27)→185a(R2)
- ・堆肥投入による化成肥料使用料の削減。

